

ほっとHOT

ほん・夢いっぱい
わくわく図書館

令和7年2月号 NO.407

川西市立中央図書館
KAWANISHI PUBLIC LIBRARY

特別整理期間のお知らせ

図書の特別整理のため、下記の期間休館します。

特別整理期間（休館日） 2月23日（日）～28日（金）

また、特別整理の休館に伴い、特別貸出を行います。

特別貸出期間 2月9日（日）～22日（土）

・一人 **図書20冊・CD2点・3週間貸出**

（池田市・豊能町相互利用登録の方は、**図書5冊・3週間貸出**）

休館中の返却は、中央図書館の返却ポスト（CD・CD付き図書・他の図書館から取り寄せた資料は不可）か、各公民館窓口（日曜・祝日を除く、午前9時～午後5時。詳細は各館へ）まで。

各公民館図書室では閲覧のみ可能。（開室日時は各公民館にお問い合わせください。）

なお、休館中は、通常よりも返却作業が遅くなりますので、期限直前に返却されると、作業中に返却期限を過ぎてしまうことがあります。ご了承ください。また、その場合、ご利用中の資料について、インターネットから貸出延長できなくなりますのでご注意ください。



トモちゃんが行く 川西のイトコ 川西市郷土館

はっけん！



川西市郷土館は、銅の製錬を生業としていた旧平安家住宅を利用して、1988年に開館しました。1990年に市内の小戸にあった洋館、旧平賀家住宅を移築復元しました。川西市ゆかりの青木大乘（あおき だいじょう 日本画家）・平通武男（ひらどおり たけお 洋画家）両画伯の遺作を展示する記念館・ミュージアムを1995年に建設。2010年に平通画伯のアトリエを再現したアトリエ平通が建てられました。

旧平安家住宅と旧平賀家住宅は、国登録有形文化財（建造物）に登録されており、旧平安家住宅は兵庫県景観形成重要建造物に指定され、旧平賀家住宅はひょうご近代住宅100選に選ばれています。

図書館入口正面にある壁画『白馬と童女』は、青木大乘画伯の六曲屏風一双の作品を忠実に模写した陶板タイルです。

開館時間：午前10時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合翌日）・年末年始（12/28～1/4）

入館料：19歳以上300円、18歳以下150円。川西市の中学生以下は無料。高齢者・障がい者（介護者は1人）・団体は割引あり

参考資料

『関西商工界の父・平賀義美』 関西大倉学園/刊 C00/289.1/ト5

『昔も今もこれからも兵庫を築く』 兵庫県建設業協会/編・刊 C10/521.8/ムカ

『川西文化財めぐり』 川西市教育委員会/刊 C00/709.1/カ7

川西市郷土館 HP <https://www.kawanishi-hyg.ed.jp/kyodokan/>



旧平安家住宅



旧平賀家住宅



『白馬と童女』青木大乘画伯

TOPICS

- ・1面：特別整理期間のお知らせ / トモちゃんが行く 川西のイトコ
- ・2面：特集「蔦屋重三郎」関連書籍紹介
- ・3面：芥川賞・直木賞受賞作決定 / 相続登記、遺言等の関連書籍展示
- ・4面：図書館カレンダー・定例行事 / 図書館登録グループ



特集「**蔦屋 重三郎**」関連書籍紹介

2025年の大河ドラマは『べらぼう～蔦重栄華乃夢噺(つたじゅうえいがのゆめばなし)～』です。ほっとHOT2月号では蔦屋重三郎の伝記や小説、重三郎の生きた江戸時代に関する本と電子書籍を紹介します。大河ドラマを見ている人もいない人も江戸の芸術文化を楽しんでみませんか？

No Image	『蔦屋重三郎』
	松木 寛/著 日本経済新聞社/刊 289.1/ツタ
	1988年のサントリー学芸賞を受賞した学術的な蔦屋重三郎の評伝。田沼時代の変革期に吉原で育ち、吉原のガイド版「吉原細見」の出版に乗り出した重三郎は、写楽だけでなく喜多川歌麿、十返舎一九などの才能を見だし新しい芸術文化を築き上げる。波瀾万丈な人生も本書からうかがえる。

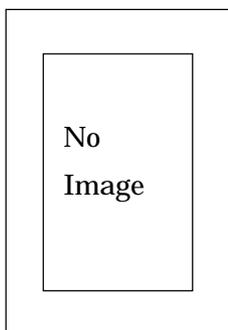
No Image	『華の蔦重』
	吉川 永青/著 集英社/刊 F/30
	「楽しんで生きられたら憂さなんて感じないで済むんです」斬新なアイデアと人たらしの才覚をもつ重三郎は才能ある作家や浮世絵師を次々発掘し、メディア王にのし上がった。しかし変政の波がじわじわと押し寄せる。江戸時代中期から後期、華やかな江戸文化の立役者の粹でいなせな男一代記。

No Image	『NHK スペシャル シリーズ大江戸の世界』
	洋泉社/刊 213.6/17
	重三郎の生きた江戸の知られざる姿を3つのテーマで描く。「水の都」の章で、江戸城の堀を利用した巨大水路建設について。「商都」の章は、鎖国の中、あきんどが開花させた商業の物語。「大火の都」の章では、何度も大火に襲われる火災の都が復興を成し遂げた物語。カラー写真満載で解説。

◀◀ 電子図書館 関連書籍紹介 ▶▶

「これ一冊でわかる！
蔦屋重三郎と江戸文化」

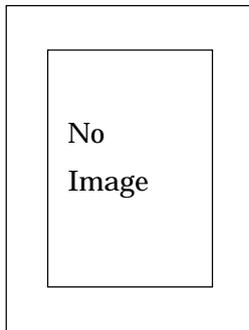
伊藤 賀一/著
Gakken/刊



重三郎の波瀾万丈の生き方を解き明かす！

「るぶ江戸」

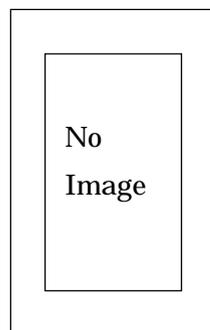
JTB パブリッシング/編
JTB パブリッシング/刊



重三郎の生きた江戸時代へタイムトリップしてみよう

「面白すぎて誰かに話したくなる蔦屋重三郎」

伊藤 賀一/著
リベラル社/刊



ベストセラーを生む天才商人「蔦屋重三郎」に迫る！

芥川賞・直木賞受賞作決定

第172回 芥川賞2作品・直木賞1作品が決定しましたのでご紹介いたします。



芥川賞

「群像」「新潮」「文学界」は図書館で所蔵しています。

『Dトピア』

安堂 ホセ/著 河出書房新社/刊 F/A7 (初出:「文藝」2024年秋季号)

南の島で1人の女性を巡って世界各地から集められた10人の男性が競い合う、「恋愛リアリティ番組」が舞台。人種や植民地支配、ジェンダーやセクシュアリティなどの社会問題について鋭く問う作品。2022年に『ジャクソンひとり』で文学賞を受賞し、デビュー。同作が第168回芥川賞候補になる。2023年『迷彩色の男』が第170回芥川賞候補になり、デビュー以来3作連続の候補入りでの受賞。

『ゲーテはすべてを言った』

鈴木 結生/著 朝日新聞出版/刊 F/A8 (初出:「小説トリッパー」秋季号)

ドイツの文豪・ゲーテを研究する主人公が、自分の知らないゲーテの言葉と出会い、出典を探す物語。探求する中、言葉とはなにか文学とはなにかと思索を深めていく過程が緻密な表現で描かれている。2024年大学在学中に執筆した「人にはどれほどの本がいるか」で林芙美子文学賞の佳作を受賞し、デビュー。現在は大学院に在学している。今回2作目の作品で芥川賞を受賞。

芥川賞 受賞作以外の候補作

- 「ダンス」 竹中 優子/著 (初出:「新潮」2024年11月号)
「字滑り」 永方 祐樹/著 (初出:「文学界」2024年10月号)
『二十四五』 乗代 雄介/著 講談社/刊 F/A9 (初出:「群像」2024年12月号)

直木賞



『藍を継ぐ海』 伊与原 新/著 新潮社/刊 F/B3

日本各地の土地特有の歴史や自然を科学の視点を通して物語る短編集。徳島県の海辺の町でこっそりウミガメの卵を孵化させようとする、女子中学生が主人公の表題作など5作品を収録する。2010年『お台場アイランドベイビー』で横溝正史ミステリ大賞を受賞し、デビュー。2019年『月まで三キロ』で新田次郎文学賞を受賞。直木賞は2021年『八月の銀の雪』で候補入りし、今回2回目での受賞。

直木賞 受賞作以外の候補作

- 『よむよむかたる』 朝倉 かすみ/著 文藝春秋/刊 F/A7
『飽くなき地景』 荻堂 顕/著 KADOKAWA/刊 F/B4
『秘色の契り』 木下 昌輝/著 徳間書店/刊 F/B5
『虚の伽藍』 月村 了衛/著 新潮社/刊 F/B6



相続登記、遺言等の関連書籍展示

日時 2月1日(土)～22日(土) 場所 4階 展示コーナー

内容 令和6年4月から相続登記の申請が義務化されました。図書館では相続登記や遺言に関する本を展示いたします。

